

平成 2 9 年 第 3 回

富 山 県 教 育 委 員 会 会 議 録

I 開会及び閉会の日時

平成 29 年 3 月 10 日（金）

開会午後 2 時 00 分、閉会午後 3 時 21 分

II 場所

教育委員会室

III 出席委員

1 番 米田 猛

2 番 山崎 弘一

3 番 町野 利道

4 番 村上 美也子

5 番 藤重 佳代子

教育長 渋谷 克人

IV 説明出席者

教育次長 山下 康二

教育企画課長 五十里 栄

生涯学習・文化財室長 齋藤 幸江

教職員課長 廣島 伸一

県立学校課長 荒木 義雄

小中学校課長 清田 秀夫

保健体育課長 秀永 倫明

V 傍聴人数 1 人

VI 会議の要旨

午後 2 時 00 分、渋谷教育長が開会を宣する。

1 会議録の承認について

（平成 29 年 2 月 13 日開催の平成 29 年第 2 回富山県教育委員会会議録）

会議録閲覧

渋谷教育長から可否を諮ったところ、全員異議がなく承認した。

2 議決事項

議案第 6 号 平成 29 年度富山県教育委員会重点施策に関する件

教育企画課長から説明し、原案のとおり可決した。

議案第 7 号 富山県指定有形文化財の指定の件

生涯学習・文化財室長から説明し、原案のとおり可決した。

3 報告事項

(1) 臨時代理について（平成 29 年 2 月富山県議会定例会に付議する事案に対する意見に関する件）

(2) 土曜学習モデル事業について

教育企画課長から説明した。

(3) 平成 29 年度富山県立学校入学者選抜の志願状況及び受検状況等について

(4) 上市高等学校における平成 29 年度県立高等学校全日制の課程入学者選抜学力検査英語聞き取り

テストの中止について

県立学校課長から説明した。

4 その他

今後の教育委員会等の日程について

教育企画課主幹から説明した。

5 議決事項

午後 2 時 54 分、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 14 条第 7 項ただし書の規定に基づき、

議案第 8 号及び議案第 9 号については委員全員の同意により会議を非公開とすることを可決し、議事の審

議に入った。

議案第8号 富山県銃砲刀剣類登録審査委員の任命の件

議案第9号 教育職員の人事異動に関する件

6 議事

○議決事項について

議案第7号関係

〔山崎委員〕

- ・考古学分野からの指定は今回が初ということだが、対象となるものは、他にもまだまだたくさんあるのか。

〔生涯学習・文化財室長〕

- ・色々開発されており、県の縦横全体を掘って出土されたものの中から今回選ばれたものということである。件数は大体150ほど。

〔教育長〕

- ・価値は別として、非常に多くの出土品があり、その中から厳選されているものと聞いている。特に、最初の説明にあったが、古い石器時代のものに焦点をあてて、それだけを今審議している。

〔町野委員〕

- ・これは10年、20年の間に集まったものか。

〔生涯学習・文化財室〕

- ・50年間である。最初に出てきたものを指定すると、後から価値の高いものが出てくると困るということで、ずっと貯めていたものの中から、例えば資料のウワダイラの方では、約1,500点の石器が出土しており、その中から特にこれだというものを選定している。

〔藤重委員〕

- ・これらはどう違うのか。

〔教育長〕

- ・それぞれの時代を代表するものと理解していただければ。しかも単に代表するだけでなく、プラスアルファのものがある。また、9ページの立美遺跡の出土品は、室長の説明にもあったが、珍しいものである。富山県で産出している黒曜石ではないが、他の県から、多分これをもって獲物を追いかけてきたのだと思う。ここから南でも見つかるかもしれないが、そこで一族で土着したのか、もしくは残念なことになったのかは分からないが、そういうエピソードがプラスアルファされて、考古学的視点から貴重なものだという説明を審議会で受けた。

〔生涯学習・文化財室長〕

- ・何万年前というのはどうして分かるのかと言っていたが、担当者によると、昔九州の方で火山が爆発し、その火山灰が富山まで降り注いで、さらにその下の方であったということから分かった。

〔教育長〕

- ・地層によってということである。

〔藤重委員〕

- ・およそ何万年前か。

〔生涯学習・文化財室長〕

- ・ウワダイラは2万3千年前。

〔町野委員〕

- ・埋蔵文化財センターに50年分がたまっているのか。

〔教育長〕

- ・文化財保護主事の方が分析している。お宝だから。

〔生涯学習・文化財室長〕

- ・展示スペースに一部があり、奥の方にどこの何というものがびっしりとある。

○報告事項について

報告事項（1）関係

〔町野委員〕

- ・最初のところの補正予算の3番目に繰越明許費と書いてあるが、どういう意味か。

〔教育企画課長〕

- ・繰越には事故繰越と繰越明許の2種類あり、事故の場合は何らかの予期しないことがあった場合に繰り返すことだが、繰越明許は明らかに今の段階で分かっているもの、もう間に合わないものについてこういう形で繰り返すことである。

〔町野委員〕

- ・事故繰越というのはトラブルの事故か。

〔教育長〕

- ・繰越は、要は予算をつけたのに来年にまたいで行ってしまったということ。その場合、明許と事故があり、事故というのは予期せぬことがおこってしまって全然できなかった、間に合わなかったというもの。明許は明らかに許すということで、もう分かっているものを予算として計上して翌年度に使えるようにするというものである。

報告事項（2）関係

〔米田委員〕

- ・34、35ページの、土曜授業の勤務日の振替について、どのように感じるかというアンケートの集計結果を見ると、やや困難、困難であるというのが多い。小学校もだが、中高は多分部活の関係で、振替が出来ない。そのことは土曜授業を実施する前から明らかだったと思う。夏休みにも研修、出張、会議があって、結局、取りたくても絶対的な日数が足りないから取れないという状況が起きているのだろうと思うが、60何%もの教員が困難であると考えているのだから、何か対策を考えないといけない。ずっとこれを繰り返すわけにはいかないとと思う。

〔教育企画課長〕

- ・グラフ27については、昨年と比べてどのように感じたかということで、あくまで比較ということになってしまっているわけだから、果たしてこの統計がその時点のものを表しているのかどうか疑問なところがある。

〔米田委員〕

- ・いろんな負担を軽くする方策が書いてあるが、限界があると思う。今年新たに予算をつけて続けられるから、やはり子どもたちや家庭の問題ももちろん大事な問題だとは思いますが、一方で教員のこういった状況を何とかクリアしないと。一方で効果があると言いつつながら、こういう状況が続いているのはちょっとねじれている。

〔山崎委員〕

- ・グラフを見ると、取りにくい、困難であるという人の割合は少なくないように見えるが、逆に取りやすい、やや取りやすいと言っている人も結構な割合でいる。週休日の振替が出来る期間が拡大したかと思うが、問題は「取りにくいと考えている教員が多い」というその部分だと思う。取れないというわけではないと思うが。

〔町野委員〕

- ・振替が取れない人がいることを容認する方向で行くのか、一人でもそういった人がいたら駄目だと考えるのか、それによってやり方が変わってくる。

〔村上委員〕

- ・今年度から教職員のストレスチェックが始まっていると思うが、どんなものか。他の職種に比べて、何が苦しいかによる。

〔町野委員〕

- ・ほんの一部の人たちが、ある瞬間ストレスを感じて嫌だと思ってやっている人もいるだろうから。

〔村上委員〕

- ・時間的なものだけではないから。その感じ方は一概には言えない。

〔町野委員〕

- ・前向きにやれば時間は関係ないと思う。

〔米田委員〕

- ・部活でも、ブラック化していると話題になっているが、好きでやっている人もいるが、無理やり顧問にさせられている人もいる。ずっとサッカー一部で顧問をやっていて意気に感じていたが、バスケットボール部を持たされてはじめて部活のしんどさを味わったと。やっぱり、それと同じようなことが起こっているのじゃないかなという気がする。教員聖職論では今の世の中は通らない。そのあたり考えないといけない問題が多いと思う。

〔教育長〕

- ・今の話は、教員の多忙化ということだと思う。多忙化については非常に大きな課題で、それに対してどう対応するかという話である。多忙化と多忙感は違い、例えば学校の先生方は子どもと触れ合っていくことを生きがいとして教師を目指し、今学校現場にいるわけであるから、子どもと触れ合うことを多忙だと思ふ先生はまずいない。実際は多忙だが、次の日の授業の準備をしたりとか、そういう意味で非常に多くの時間を費やしている。多忙だが多忙感を感じていない。ところが、多忙感の方はものすごいストレスで、代表的なものは今指摘があったが、まったくスポーツが得意ではなく、興味も持っていないが運動部の顧問をすることになった時には非常に負担が大きい。土日に試合があったら行かなくてはならないし、それともう一つは事務仕事。教育委員会でもなるべく少なくしているが、行政的、集計的なもの。それと学校行事の部分もどちらかというと事務仕事を中心になっている。また、現場で一番問題になりやすいのはいわゆる保護者対応。保護者の方々の意識が色々変わっている面があり、その対応に多大な時間がかかるという。これもストレスと共に多忙感の代表的なものである。これを、どう解消していくかという話だが、部活動については外部人材を活用する方向で対応している。保護者対応も含めてだが、問題行動やいじめ、不登校。これを先生方にもお願いしても専門家ではないから、やはり外部人材ということでスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの力を借りた方が効果的である。その部分の人材をどんどん増やしているというのが一番最初に申し上げた予算の部分。教育企画課長から主な事業ということで一覧表で説明させていただいたが、スポーツエキスパートも610人いる。各中学校、高校に派遣しているスポーツエキスパートをさらに増やしていこうと。その一環で土曜授業があって、米田委員ご指摘のように土日にはなかなか振替がきかないもので、夏休みを取らざるを得ない実態があり、それに対して大変否定的に見る部分がある。導入当初はやはり市町村の中でもかなり色々な議論があったようである。実際今行っているのは一市だけ。蓋を開けてみると全部取らなくてはならないというのは原則だが、グラフを見ると実際には取れるようになってきているのではないかと思う。教員の負担が更に増えているわけだから。そういった面について、ただ一方で土曜授業をやると、月曜日から金曜日までの授業の長い部分を引っ張ってきて土曜に実施するというので、平日に子どもと触れ合う時間があり、これが増えているといったアンケートは先程見ていただいた通りなので、問題点や課題と併せて、その中で判断していくことになるかと思う。

報告事項（4）関係

〔米田委員〕

- ・中身は勿論違うと思うが、前日にリハーサルはしているのか。

〔県立学校課長〕

- ・やっている。午前中、3教科試験が終わってしばらく経ったところで、当然同じ部屋でやるので、その部屋でCDの一部をチェック用に使っていい部分があり、それを何度もやった。その時は全然何ともなかった。

〔米田委員〕

- ・当日に事故が起きてしまったと。

〔山崎委員〕

- ・学校としてヒアリング検査は一番神経を使うところであり、直前まで調整を行い、問題が起きないことを確認して臨んでいるが、まれにはあるが、こういうことが起こることがある。原因はどこかにあるのだろうが。

〔町野委員〕

- ・予備機は置いていないのか。

〔県立学校課長〕

- ・当然予備機も用意していると思うが、また見直さなければならぬと思う。一旦始まって流れてしまうとおしまいなので。

〔米田委員〕

- ・聞こえているからまずい。

〔町野委員〕

- ・私たち株主総会は全部予備機を置いている。

〔県立学校課長〕

- ・デッキを入れても動かなければ切り替えれば良いのだが、動くものだから。当日も県教委からすぐ人を派遣して確認したのだが、明らかにこれがミスだというものが見つからない。専門家に入ってもらわないと、入って果たしてその状況が再現するかどうか分からない。

〔教育長〕

- ・結局当日、あの後もう一回やってみたら綺麗に流れたという。試験のときだけ出なかった。装置なのか回線の問題なのか分からないが、繰り返しは絶対に駄目なので、分からなければ機器を全部変えなくてはならないかもしれない。

〔山崎委員〕

- ・不思議なことだが、原因が何であれ起きたことは許されないこと。

〔町野委員〕

- ・一部屋だけなら予備機ということも考えられるが。

午後3時21分、議事が終了したので教育長が閉会を宣した。

